

普及活動情勢報告（令和7年10月分）

高吾農業改良普及所

刻みサンショウの選別・調製作業で農福連携体験研修を実施



体験研修の様子

9月29日、農事組合法人ヒューマンライフ土佐において刻みサンショウの出荷調製作業の農福連携体験研修を実施しました。これは、普及所が就労継続支援事業所への作業委託による農業者の労力不足解消を目的に研修を企画したもので、就労継続支援B型事業所2カ所から職員と利用者3名、関係機関職員14名が参加しました。

刻みサンショウは漢方薬の調合に使われる生薬として出荷するため、厳しい選別基準が設けられていることから、出荷調製作業に手間と時間を要します。一方、乾燥品のため常温保存して都合のよい時間に作業することが可能です。

参加者は「色の薄い果実の判断が難しい」と感想を話していました。

普及所では、今後も農福連携の支援に取り組んでいきます。

高糖度トマトの生産安定に向けて ～合同巡回の実施～



合同巡回の様子

10月1日、JA高知県日高支所ハウス園芸部会が促成高糖度トマトの合同巡回を実施し、6戸が参加しました。

普及所は実施にあたり、時期や巡回ほ場について部会役員と事前に協議し、品種試験の実証ほ場と定植時が異なる農家ほ場を選定しました。

合同巡回当日では、生育状況や栽培の注意点に加え、普及所管内で初めて被害が確認されたトマトキバガについても注意喚起を行いました。

参加した生産者は、「着果状況はどうか」「かん水量はどうしてるか」「まだ品種の差は分からないね」など互いに活発な意見交換をしていました。

普及所では、今後も生産者とともに高糖度トマトの生産安定に向けて取り組んでいきます。

新規就農者の現地確認 ～R8園芸年度の目標達成に向けて～



整枝作業中の様子

普及所は、10月3日に関係機関とともに日高村のトマト新規就農者5名のR8園芸年度定植後の生育及び栽培管理状況について現地確認を行いました。

高糖度トマト農家からは「定植前後のかん水管理を重点的に行ったことで目指す樹勢を維持できている」、また大玉トマト農家からは「台木を従来より強い品種に変更したことで、着果に大きな変化がみられ前年の同じ時期より収量が多く推移している」など、生育状況をよく観察しながら栽培している発言がありました。

普及所はR8園芸年度の個々の目標達成に向けて、栽培技術の向上及び経営安定に向けた指導を続けていきます。